

2024年12月2日  
株式会社 毎日放送 広報部

## 日本災害情報学会第29回学会大会 優秀発表賞・優秀ポスター発表賞受賞のお知らせ

2024年11月8日(金)～10日(日)新潟市の朱鷺メッセで開催されました「日本災害情報学会第29回学会大会」におきまして、「よんちゃんTV」出演の前田智宏気象予報士が優秀発表賞を、毎日放送報道情報局の福本晋悟記者(防災士)が優秀ポスター発表賞を受賞しましたのでお知らせいたします。

日本災害情報学会は、防災・減災に役立つ災害情報や、その伝達・受容のあり方を調査・研究し、社会に提言することを目的として1999年に設立され、年2回の学会大会を開催しています。

今回、前田気象予報士は『「正答」率から考える「わかりやすい」防災気象情報—気象庁・防災気象情報に関するアンケート調査の活用』について発表し、優秀発表賞を受賞。福本記者は『2024年花蓮地震発生時のテレビ災害特別番組におけるキャスターコメント分析—能登半島地震との比較—』について発表し、優秀ポスター発表賞を受賞いたしました。

### ■前田気象予報士のコメント

複雑化している防災気象情報は、住民にどう理解・認識されているのか。気象庁が実施したアンケートデータを活用し、さらなる分析と考察を加えました。今回の研究は、視聴者の皆さんにとって「わかりやすい」情報とはどのようなものか、そしてどうお伝えすれば避難行動に繋がるのか、という問題意識が出発点となっています。防災気象情報の体系は、2026年度にもまた新たな形になる見通しです。混乱も予想される中、気象キャスターとしてより「伝わる」天気予報を目指し、今回の受賞を糧に研究活動にも一層力を入れて取り組んでいきます。

### ■福本記者のコメント

「どのような言葉で視聴者に避難を呼びかけるべきか」、客観的データに基づいた検討はあまり進んでいないため、能登半島地震と花蓮地震(4月に発生)の各局の番組内容を分析しました。結果、能登半島地震よりも花蓮地震では、第1波到達予想時間などのリアルタイム情報と高所避難の呼びかけを多く伝えた傾向がありました。考察として、津波到達時間や高さを根拠として高所避難の必要性を伝えるべきと考えています。研究成果は、南海トラフ地震などを見据え社内外を問わず報道現場に還元し、今後も業務・研究ともに研鑽を重ねてまいります。

以上

本件問い合わせ先:毎日放送 広報部